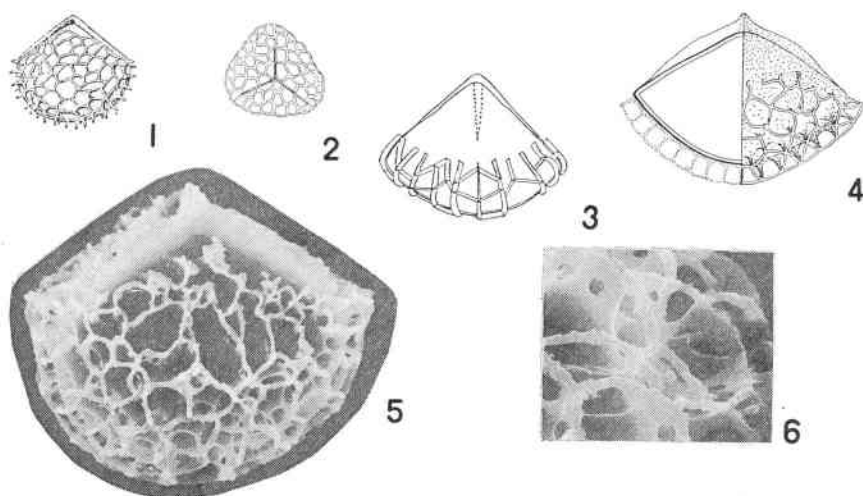


雑録 ヒカゲノカズラの胞子の表面構造について (近田文弘*)

Fumihiko KONTA* : On the ornamentation of the spore of *Lycopodium clavatum*

ヒカゲノカズラの胞子が四面体型であることに異論はないが、その表面構造に関しては様々な意見が出されてきた。それは胞子表面の構造が立体的で光学顕微鏡ではとらえにくいことによっている。Pritzel(1900)やEames (1936)は胞子の表面に密着した細い網目構造物があり、この表面にトゲがあると考え(図1)、Erdtman (1957)やRouse (1965)はある高さを持つ屏風状の構造物が網目をつくっていると考えた(図3)。さらに川崎(1972)はトゲのない細い網目構造をしていると考えた(図2)。Erdtmanはまた、いわゆる「屏風」に穴があいているのではないかと考えたが、そうであるとは断定しなかった。筆者(1969)は自己の観察からこの考えが正しい表面構造を示しているとの確信から胞子図解(パリノグラム)を発表した(図4)。筆者は胞子の表面に沢山の柱が立っていて、この柱の先端を細い糸状の構造物が連なっている構造をしていると理解したのである。筆者の主張はWilce (1972)の走査型電子顕微鏡を用いての観察により明らかに支持されると思われる。最後のツメをWilceに先を越されたことになって残念であるが、彼が米国产の材料を観察したのに対し、最近筆者は日本産の胞子を彼と同様に観察した。筆者の観察はWilceのそれと一致し、基本的には筆者の考えが正しいことを跡づけた結果になった(図5-6)。しかし、胞子表面の「柱」の中が広いものや屏風状のものも観察されたし、また胞子の表面にはかなりの凹凸があることなど筆者の胞子図解ももう一步という所であった。



ヒカゲノカズラの胞子

Spores of *Lycopodium clavatum*

1. after Pritzel : 2. after Kawasaki : 3. after Rouse : 4. after Konta : 5-6. Prepared by the present author with the scanning electron microscope (5. $\times 1200$. 6. $\times 3000$)

* 静岡大学理学部生物学教室